

【2】慢性前立腺炎に伴う排尿時痛に対する 竜胆瀉肝湯の使用経験

医療法人 仁医会 染矢クリニック

木下 義久

【症例1】50台男性。外科手術時の尿道カテーテル留置後、1年以上続く排尿時痛のため受診。鎮痛剤や神経障害性疼痛治療剤を処方するも効果は限局的であった。竜胆瀉肝湯を投与したところ、排尿時痛は改善し、投与開始から60日で排尿時痛は消失した。痛みの再発もなく、経過観察中である。

【症例2】60台男性。前立腺肥大症を伴う慢性前立腺炎で通院中であつたが、しばしば排尿時痛を訴えていた。レボフロキサシンや鎮痛剤を投与していたが、効果は限局的であつた。竜胆瀉肝湯を投与したところ、14日後に排尿時痛は消失した。その後数回排尿時痛の再発を認めたが、竜胆瀉肝湯の短期間投与で軽快し、以降排尿時痛は再発していない。

当研究会で学んだ竜胆瀉肝湯を採用し、投与し、極めて有効であつた2症例について、若干の考察とともに報告する。